

水田除草剤適正使用について

(財) 日本植物調節剤研究協会

当協会では、水田除草剤の効果の安定と水田外への流出防止のため、散布前後の水管理の徹底を啓発する事業を行っています。その一環として、とくに散布後7日間の止水管理のキャンペーン広告を、会員会社の協力を得て、4月および5月に日本農業新聞上に掲載し、その記事を植調協会ホームページでも紹介しています。

一般に、水田除草剤は、散布後有効成分が水中に溶け出し、水田水を介して水田土壤の表層に拡がって除草効果を發揮するため、散布後に止水し、水を水田の外に流さないことは、除草

新聞廣告（全7段）

効果を安定させるとともに水田外への成分の流出を防ぐことになります。

この水田除草剤適正使用キャンペーンは、畦畔の整備とともに散布後7日間、水を水田の外に出さないよう周知徹底を図るもので

なお、今年度は、かけ流しをさせないための水管理法として、当協会が提案している水田除草剤散布後7日間は給水も止める止水管理を紹介しています。

以下に新聞廣告を掲載致します。

新聞廣告（全5段）

＼正しく使おう！／

平成21年度
除草剤適正使用
キャンペーン

徹底しよう、 水管理

散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。

財団法人 日本植物調節剤研究協会 <http://www.japr.or.jp/wadai/index.html#shinbun> 平成21年度・除草剤適正使用キャンペーン協賛各社

チェック！ 確認しよう。

1 畦畔の整備は万全ですか？ 田端が露山しないよう水を張り、水口・水栓を止めて散布しましょう。散布後7日間は決して落水・かけ流しません。

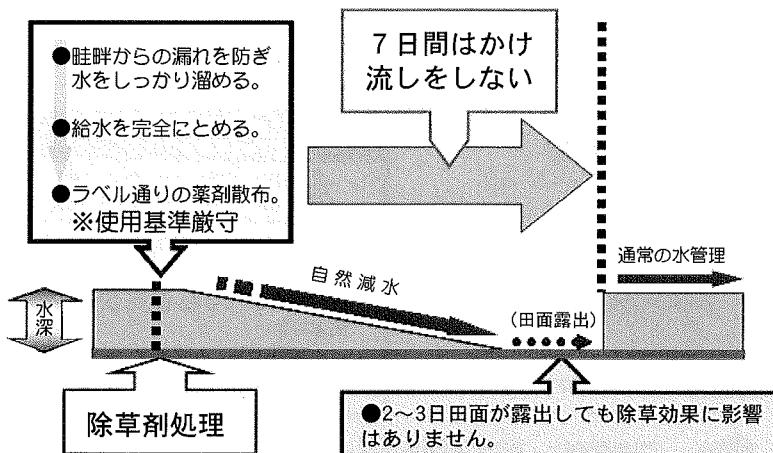
2 田面水が流出していないませんか？ 田端が露山しないよう水を張り、水口・水栓を止めて散布しましょう。散布後7日間は決して落水・かけ流しません。

3 ラベルをよく読みましょう！ 敷地耕作のラベルをよく読み、使用量・使用時期・使用目次を守りましょう。紀載以外に肥料等に使用しないでください。

植調協会の提案する除草剤処理後7日間給水しない止水管理

- 除草剤を処理した後7日間は水田水が水田外に出ないように排水口を止め、さらにその期間は給水も止める方法です。

「除草剤処理後7日間給水しない止水管理」の模式図



- 7日間給水しないでむように田面水を維持するためには

- ①畦畔を水漏れがないように整備する。
- ②田面の露出がないよう水を溜める。
- ③排水口を水漏れないようにふさぎ、給水を止める。

★注意

- 以下の場合は適宜給水して湛水維持に努めるがオーバーフローに注意する。
 - ①低温対策等、栽培上湛水が必要な場合
 - ②散布翌日に田面が露出するような漏水田
 - 田面が露出後ヒビ割れるような場合は給水する（オーバーフローに注意）。